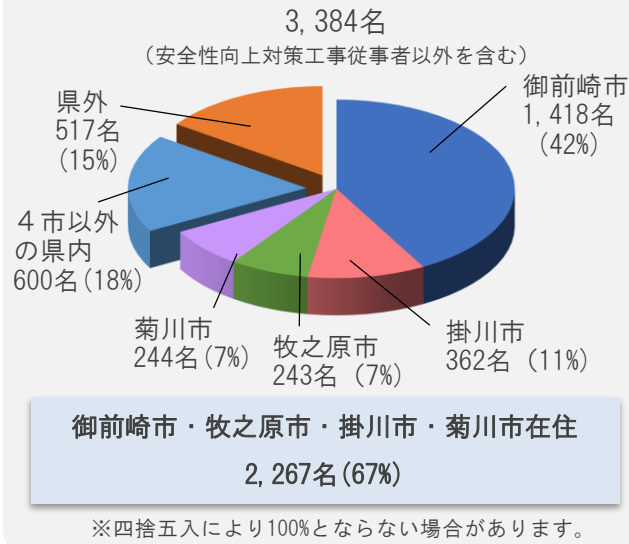


今月号のお知らせ内容

- ① 工事の進捗状況等
- ② 県市点検について
- ③ 「習熟訓練」の導入
- ④ 第4回浜岡原子力安全アドバイザーボードの実施について

浜岡原子力発電所従事者数（5月1日現在）



② 県市点検について

静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認について 第83回（4月24日）

点検および確認内容

フィルタベント設備の設置工事について
（①でご紹介した内容）

静岡県からの講評

重大事故が発生した際に格納容器の破損を防止する非常に重要な設備であるため、今後ともしっかりと工事を進めていただきたい。また、狭隘な箇所での工事であるため、作業安全に留意して進めていただきたい。

御前崎市からの講評

狭隘な箇所での工事であるため、作業安全に留意して進めていただきたい。



フィルタベント設備設置工事点検の様子

① 工事の進捗状況等

フィルタベント設備

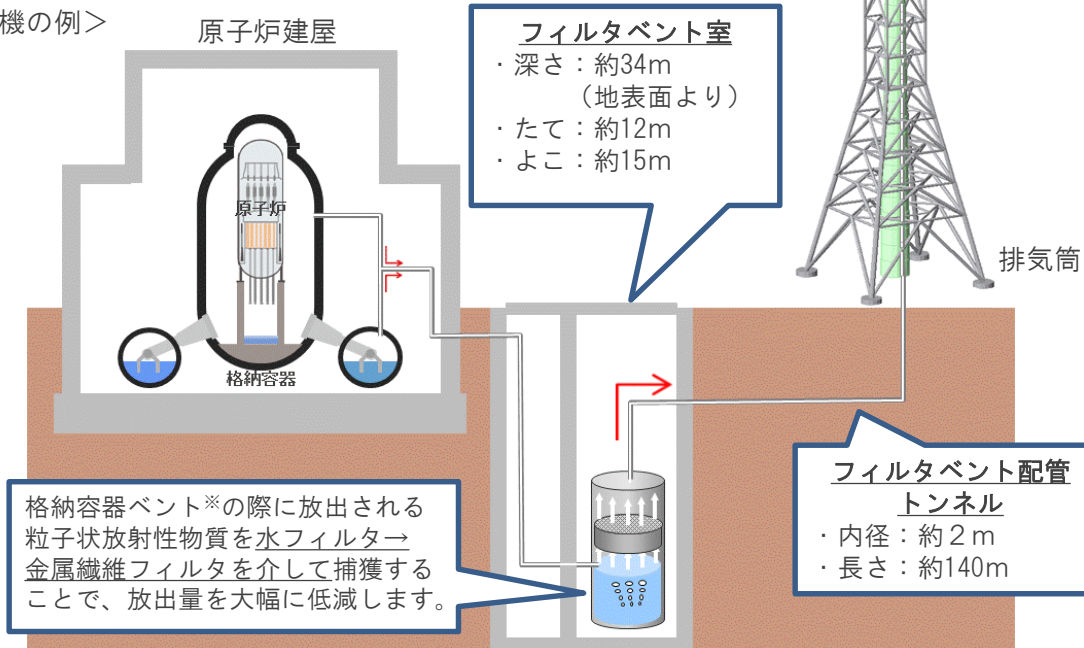
万一の事故の際、原子炉格納容器の圧力が上昇し破損することを防止するとともに、放射性物質の大規模な放出を抑制します。

現在、本体の据付や主配管の耐圧検査が終了しており、今後、システムの試験などを行なっていきます。

- 格納容器の圧力を減圧し、過圧による破損を防止
- 粒子状の放射性物質（セシウム等）の放出を1,000分の1以下に低減

大規模な土壤汚染
避難の長期化
を防止

< 4号機の例 >



※ 格納容器の圧力を下げるため、気体を外部へ放出すること

③ 「習熟訓練」の導入

浜岡原子力発電所ではさまざまな訓練を実施していますが、今年から新たに「習熟訓練」を開始しました。「習熟訓練」とはあらかじめ開示されたシナリオに沿って、決められた役割を確実に果たせるように行う訓練です。また、同じシナリオでメンバーを変えて訓練することでメンバー全員の力量向上を図っていきます。

これまで実施してきた訓練



新たに習熟訓練を開始（年6回程度）



④ 第4回浜岡原子力安全アドバイザーボードの実施について

5月13日から17日にかけて、第4回浜岡原子力安全アドバイザーボード（HaABS※）に現場確認や所員とのディスカッション等を実施いただきました。

また、期間中に実施した習熟訓練（③でご紹介した内容）も確認いただきました。

※Hamaoka Advisory Board for Safety（ハーブス）

永年原子力に携わってきた専門家を委員（5名）とし、発電所の活動に対してご意見や提言をいただきます。

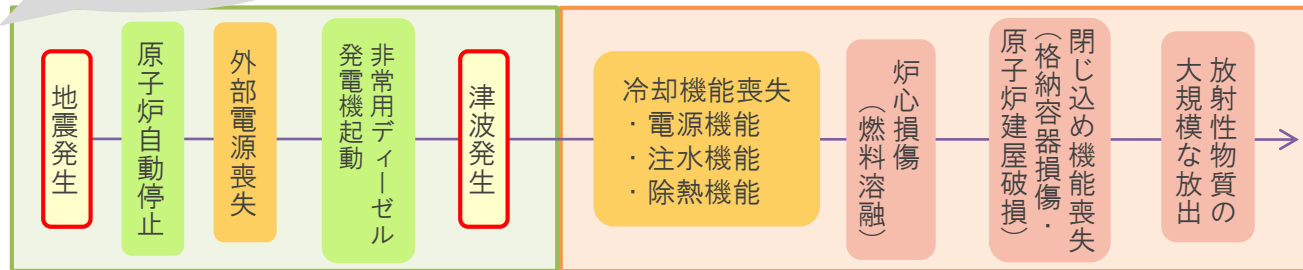


発電所の安全性を更に高めるための取り組み【概要】

福島第一原子力発電所の事故の教訓から、発電所では地震や津波等の様々な事態に対処するために、設備の追加配備や現場対応力の強化をおこなっています。主な取り組みをみなさまへご紹介いたします。

①福島第一の話

福島第一原子力発電所の事故の場合は、以下のように事象が進展しました。



発電所では、福島事故の前から電源や注水、除熱の機能をもつ設備を多重性・多様性をもって配備していますが、事故以降、様々な追加対策を講じ、更に発電所の安全性を向上させています。

②設備の話

従来の設計基準の事故に加えてより厳しい想定 of 重大事故に対処するため、様々な事態を想定し、対策を実施しています。また、対策に柔軟性を持たせるために、可搬型の設備も配備しています。

【主な設計基準事故対応設備】原子炉施設の安全を確保するための機器が、一斉に機能喪失しないようにします。

巨大地震に耐える。
原子炉建屋は岩盤に直接設置され、地震に強い構造としています。また、配管サポートの追加をはじめとした重要な設備の耐震補強を実施しています。

津波を浸入させない。
津波が発電所に来襲した場合、海抜22mの防波壁で敷地内への浸水を防ぎます。万が一、敷地内に浸水した場合でも強化扉・水密扉により建屋内の浸水を防ぎます。

自然災害に備える。
発電所敷地外で発生した火災が発電所施設に燃え移らないように防火帯を設置します。

【主な重大事故等対応設備】冷やす機能を確保し、重大事故に至らないようにします。また、重大事故等の発生を想定し、事故の進展を防ぐ機能を強化しています。

重大事故に至らせない

恒設
電源機能強化
ガスタービン発電機
高台40m地点から電気を供給

可搬
交流電源車
恒設の交流電源設備が故障した場合に備え配備

注水機能強化
緊急時淡水貯槽
高台30m地点から原子炉を冷やす水を供給(7日間分)

除熱機能強化
緊急時海水取水設備
既設の海水取水ポンプが故障した場合に備え同様な設備を設置

可搬型注水ポンプ車

可搬型取水ポンプ車

恒設の注水設備が故障した場合に備え配備

重大事故の発生に備える

フィルタバント設備
格納容器の破損を防止するため、気体を外部へ放出する際は、放射性物質を吸着するフィルタを通し、セシウムなどの放出量を1000分の1に抑えることで避難の長期化を防止します。

放水砲設備
原子炉建屋の水素爆発を防止するため、建屋から水素を排出した際に放水砲により放射性物質を地上に落とし放射性物質の拡散を抑えます。

重大事故等に柔軟に対応するため、可搬型車両やその保管場所を確保し分散配置します。対応現場へ出動できるよう、複数のアクセスルートの確保に取り組んでいます。

③現場対応力の話

配備した設備が期待通りの機能を発揮するためには、扱う「人」の「現場対応力」が必要だと考え、強化しています。

【初動対応の強化】

緊急時即応班を設置し、運用開始に向けて増強しています。

24時間 365日体制
緊急時に特化した幅広い対応力



役割
・戦略検討 (現在17名)
・アクセスルート確保
・可搬設備の操作等
現場対応

【手順の整備・資格の取得】

設備導入に伴い、必要な手順の追加や免許等の資格の取得をおこなっています。



〈取得免許例〉
・大型自動車免許
・けん引免許
・移動式クレーン免許 など

【訓練の充実】

目的に応じて様々な事故・事象への対応を網羅的に確認・強化し、緊急時に対応する組織の能力を総合的に向上させます。

総合訓練



主に現場や発電所外との連携、対応手順の確認を目的に実施しています。

図上演習



判断能力の向上を目的とした訓練を2015年度から実施しています。

個別訓練

新たに設置した設備の手順を確認するとともに、可搬設備の操作等に必要力量の向上に努めています。(年600回程度)



シミュレータ訓練



電源車操作訓練



可搬型モニタリングポスト設置訓練

今後も、安全最優先で、浜岡原子力発電所の運営に努めてまいります。また、地域の皆さまからいただいた声に丁寧にお応えし、皆さまに信頼いただける発電所を目指してまいります。